

## NHKドラマ「おしん」をアフガニスタンに提供へ

22年前にNHKテレビで放映されて好評を博した朝の連続テレビ小説「おしん」全297話が、6日、アフガニスタン国営放送に提供されることになりました。「おしん」の海外への提供は、これで61の国と地域になります。

これは、国際文化の交流事業を行っている「国際交流基金」が、政府が進めているアフガニスタン復興支援の一環として無償提供するもので、外務省とイラン国営放送（IRIB）の協力で実現しました。

「おしん」の提供を受けるのは、アフガニスタンの首都カブールに本拠を置くアフガニスタン国営放送（RTA、ラジオテレビ・アフガニスタン）で、提供のための合意書が、6日（日本時間18：30）カブールで、国際交流基金とRTAの間で交されます。

提供される「おしん」は、アフガニスタンの2大言語の一つであるダリ語に非常に近い、ペルシャ語の吹替え版です。

「おしん」の提供には、明治、大正、昭和の時代の荒波を努力して乗り越えた「おしん」の生きる姿が、去年10月の大統領選挙を経て復興に取り組んでいるアフガニスタンの人たちの励みになれば、との願いが込められています。

今回のアフガニスタンへの提供で、「おしん」の海外への提供は61の国と地域になります。これまでに提供された国々でも、視聴率がメキシコで89%、イランとタイで82%に達したほか、「太平洋戦争以来の日本への悪感情を改めた」（オーストラリア）、「この国の人たちから理解されるようになった」（メキシコ・日系移民）などの反響が寄せられ、民間外交にも一役買っています。

「おしん」は、22年前の1983（昭和58）年4月から翌年3月まで、NHKの「朝の連続テレビ小説」として放送され、平均52.6%、最高62.9%の高視聴率（ビデオリサーチ調べ、関東地区）を上げて、「おしんブーム」、「おしんシンドローム」などと呼ばれ、一種の社会現象ともなりました。